



なんと156頭の猛獣たちと暮らそうとした家族がいた

さあ、何が始まるか
悲鳴100回! 爆笑200回!
ビックリ仰天、型破り猛獣チェイス!

ROAR

Starring TIPPY HEDREN
MELANIE GRIFFITH JOHN MARSHALL
JERRY MARSHALL KYALO MATIVO

Written, Produced & Directed by NOEL MARSHALL
Executive Producer BANJIRU UEMURA Co-produced by CHARLES SELMAN and JACK RATTNER
Director of Photography JAN de BONT Music by DOMINIC FRONTIERE
FILMED IN PANAVISION METROCOLOR

DOLBY STEREO
A 56 REVERB THEATRE

ティッピー・ヘドレン
ノエル・マーシャル
ジョン・マーシャル★ジェリー・マーシャル
メラニー・グリフィス★キアロ・マチーボ
製作・監督・脚本ノエル・マーシャル
製作総指揮バンジロー・ウエムラ
撮影ヤン・ドゥ・ボン 音楽ドミニク・フロンティエール
日本語吹き替え版 カラー作品 パナビジョン/アメリカ映画 日本ヘラルド映画



▲悲鳴だけは人一倍、ママのマデリンと娘のメラニー

●ライオンは、人間に一番つきづらいついて言われている肉食の猛獣だ。昔ジョイ・アダムソンという女性が1頭の牝ライオンを飼いならし、世界的に有名になったことは「野性のエルザ」の話で良く知られている。

●そういう1頭でさえ大変なライオンを何と109頭。トラやヒョウ、クーガーなども合わせて156頭に及ぶという信じられない数の猛獣と共同生活をおくろうというすごい家族の話がこの「ロアーズ」だ。動物たちはもちろん全部放し飼い。人間の家がそのまま動物たちの家にもなっている。食事や寝おきもすべて一緒だ。

こともあろうに… 156頭の猛獣と暮らそう とした家族がいた!

●この「ロアーズ」を作ったのは「エクソシスト」を製作したノエル・マーシャルという人。出演は彼と彼の家族。妻は「鳥」という映画で有名なティッピ・ヘドレン。なにせ自分たちの猛獣たちとの実生活をそのまま映画にしたのだから、どれをとってみても本物の迫力でいっぱいなのだ!

●この驚異の映画「ロアーズ」は、すでにドイツ、イタリア、オーストラリアなどで公開され大ヒットとなっているが、そのほかの国では今年の夏に公開される。おそらく世界中の子供たちの夏休みが、この「ロアーズ」の話でもちきりになるにちがいない。

ROAR

日本ヘラルド映画

水槽にかくれても
ダメだよ、
▼ジョン君!



湧きに湧いた 日米の大試写会!

●昨年3月にロスアンゼルスのアカデミー記念劇場、12月に東京・読売ホール、そして今年2月にヤクルトホールで、「ロアーズ」の特別試写会が開催された。それぞれの会場には地元の子供たち、大人たちがかけつけ、上映前にはすでに超満員になるほどの盛況ぶりだった。映画がはじまり20分ぐらいして、悲鳴に近いどよめきが場内をつつんだのは、奇しくも三会場とも同じだった。

●アフリカで猛獣たちと暮すハンクのもとを妻と子供たちが訪れるが、出迎えたハンクと家族は運悪く空港ですれ違い。家族は自力でやっとハンクの家にとどり着くが、一息つく暇もなかった。ライオンやトラやヒョウがうじゃうじゃと顔を現わしたからだ。猛獣たちはホントはハンクの家族にあいさつをしたかったのかも。だがそんなことを知らぬ家族はもう逃げまどうばかり……………。

●映画の前半からは悲鳴と笑いと拍手と足踏みと、もう場内は割れんばかりの騒ぎ。まさに悲鳴100回/爆笑200回!

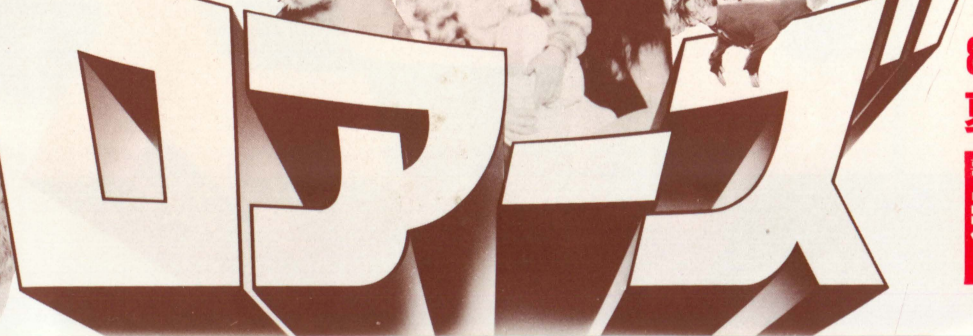


◀逃げれば逃げるほどやってくる! コワイヨーノと次男のジェリー君。



オレたちひょうきんライオン族だァ!

ガオー



? なぜ 猛獣たちと生活するようになったのか。

ママと
ママの寝室
までこの通り…

●今から12年ほど前、映画の仕事でアフリカを訪れたノエル・マーシャル、ティッピ・ヘドレン夫妻は、モザンビークの禁猟区のあるあき屋に30頭ものライオンが住みついているのを目撃、「本当はライオンも人間みたいに家に住みたいと思ってるんじゃないかしら」と考えた。もともと動物好きの二人は、アメリカで彼らと一緒に暮らせないものだろうか、又その暮らしを映画にしたらどんなにすばらしいだろうと思い、帰国後さっそくライオンをアメリカで見つけるのは容易なことではなく、サーカス、動物園、ペット・ショップなどをかけずり回り、やっとの思いで手にしたのが生後3か月の牡ライオン、ケーシーだった。やがてケーシーは子供を増やしマーシャル家のライオンの家族も次第に多くなっていった。しかし、そこで困ったのは住居問題、隣近所にも迷惑になるので住まいをビバリー・ヒルズからロスアンゼルスのあるソルダッド峡谷という広い場所に移しそこをアフリカに見たてて「ロアーズ」の撮影を開始したのだ。156頭のライオンたちと6人の人間の物語。今から7年前の1975年のことだった。



●マーシャル一家と共同生活する猛獣たちはライオンをはじめとしてトラ、ヒョウ、クーガー、ジャガー、チータ、アフリカ象など総勢156頭。しかも彼らには全員名前がついておりマーシャル家の人たちは一目で誰が誰だかすぐわかるそうだ。

●また156頭の食事の量も大変なもので、彼らが口にする肉は一日だけで900キログラム。食費は月に何と660万円もかかるという。

●156頭の中には珍しい種類の動物もいる。例えば父がトラで母がライオンの「タイゴン」(タイガーとライオンの合成語)。アメリカには4頭しかいないという変わりダネ。又世界中に現在250頭しかいないというシベリア・トラもマーシャル家には19頭もいる。

●ソルダッド峡谷にあるマーシャル家の土地は何と160エーカーという広さで、後楽園球場の65倍にあたる。そこを金網でかこい、動物たちを放しておくのだ。

ロアーズ・ビックリメモ



●この「ロアーズ」の5年に及ぶ撮影期間に二度の大きな災害がおこった。一度目は峡谷のダム決壊による大洪水で、二度目は大規模な山火事だった。動物たちはほとんど全員無事だったが、フィルムやカメラが大量に被害を受け、映画の完成が大幅に遅れてしまった。

撮影はとつてもたいへんでした▼

▼「なにノライオンがオレを好きだつて」愛嬌のある黒人マシーボ

8月14日(土) 夏休みロードショー!

歌舞伎町 コマ劇場前
新宿オデオン座

☎(202) 5657

